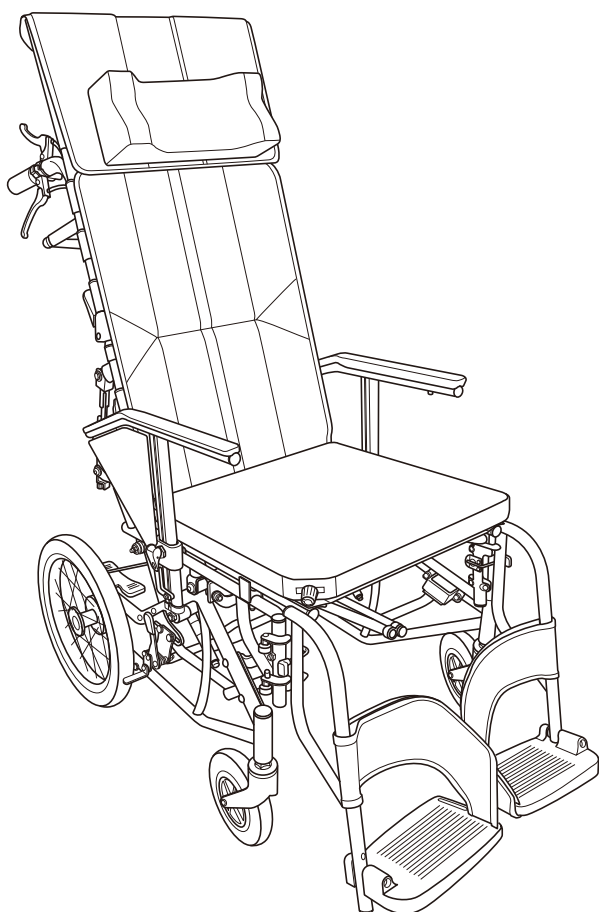


シーアールティー・ダブリュアール

〔型式：CRT-WR〕

製品分類：座位変換型介助用手動車いす（JIST0102、122220）

取扱説明書



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の身体の状態・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。

目次

はじめにご確認ください	2
使用目的・特徴	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	6
使いかた	7
ブレーキのかけかた	7
車いすの開きかた	8
車いすのたたみかた	9
シートの取り付け・取り外し	10
乗り降りのしかた	11
段の上がりかた	12
アームサポートの高さ調節	12
フット・レッグサポートの開閉・取り外し	13
各部の調節のしかた	14
フットサポートの高さ調節	14
シートの角度調節（ティルト機能）	15
バックサポートの角度調節（リクライニング機構）	15
転倒防止装置の取り付け・取り外し	16
バックサポートの張り具合調節	17
使用上のご注意	17
困った時には	19
仕様	裏表紙
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

はじめにご確認ください

本製品ご購入後にはじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

- ・車いす本体 1台
- ・バックサポートシート 1ケ
- ・工具（スパナー2ケ 六角レンチ5mm・4mm・3mm各1ケ）
- ・枕 1ケ
- ・エアールクッション 1ケ
- ・取扱説明書（本書）
- ・保証書

ご使用前の準備は、下記のページをお読みください。

- ・P.8 車いすの開きかた
- ・P.10 シートの取り付け、取り外し
- ・P.16 転倒防止装置の取り付け、取り外し
- ・P.17 バックサポート（背もたれ）の張り具合調節

※エアールクッションのご使用については、別添「エアールクッション取扱説明書」をご覧ください。

使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

ティルト（座角度調整）機能とリクライニング（背角度調整）機能を装備しています。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】



危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】



警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

危険



スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下ってください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。



エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）での使用は、絶対に行わないでください。転倒や転落など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。



通常は、必ず転倒防止装置が機能するように取り付けて使用してください。後方へ転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。

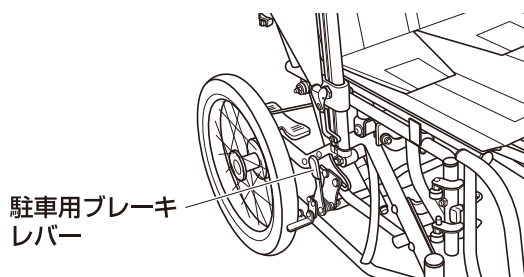
警告

⊘ 乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。
主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

⊘ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

⊘ ティルト・リクライニングさせた状態で乗り降りしないでください。
転倒などの事故やけがにつながる恐れがあります。

⊘ 乗り降りの際には駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



! 制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

! 使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

⊘ アームサポート、アームサポートフレーム、フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。
アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

⊘ フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

! フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されたことを確認してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

! 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

! ティルト・リクライニング操作は必ず介助者が行ってください。

! 乗り降りの際は、シートを水平の位置にもどしてください。

! ティルト・リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。
使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていたら、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

⊘ ティルト・リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

⊘ 走行中は、アームサポートの高さ調節、フット・レッグサポートの開閉、ティルト・リクライニング操作等をしないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。


! 乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣類を引っ掛けないように注意してください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。


! 乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。


! タイヤの摩耗に注意してください。
タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。


! 各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

警告

- 


車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- 


前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方に転倒する恐れがあります。
- 


車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- 



手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを入れたり、吊り下げたりしないでください。
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。


注意


- 


この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。
- 


最大体重(積載物含む)は100kgです。
体重制限を守って使用してください。
- 


車いすをたたむときや、折りたたんだ車いすを開くときは、シートパイプを握らないでください。
手をはさみ危険です。
- 
- 


使用者が乗車中は、背折れジョイントの操作は絶対に行わないでください。
背折れジョイントのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。
- 


背折れジョイント、アームサポートフレーム、フット・レッグサポート、ティルト・リクライニングの可動部等に指や身体をはさまないように注意してください。
- 


走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- 


走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。
- 



フットサポートは足で上げないでください。
けがをする恐れがあります。
- 


シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。
- 

介助者は、ティルト・リクライニング操作をする前に「倒します」「起します」と声をかけてください。また操作するときは、使用者の体重が押し手にかけられますのでしっかり支えてください。
- 

使用する前に主輪、キャスト、駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

アームサポートの高さを調整した後は、必ずロックされたことを確認してください。
- 

暖房器具にタイヤを近づけないでください。
タイヤの表面が溶けたり、破損したりすることがあります。
また、ハイポリマータイヤの場合、タイヤの表面が溶けたり破損する場合があります。
破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。
- 
- 

フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
- 

操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

注意



段差のあるところを昇り降りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。

車いすの破損や故障の原因となります。



車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。

車いすの破損や故障の原因となります。



車輪を他のサイズや種類に変更しないでください。



バックサポートの面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなりフレームの変型の原因になります。

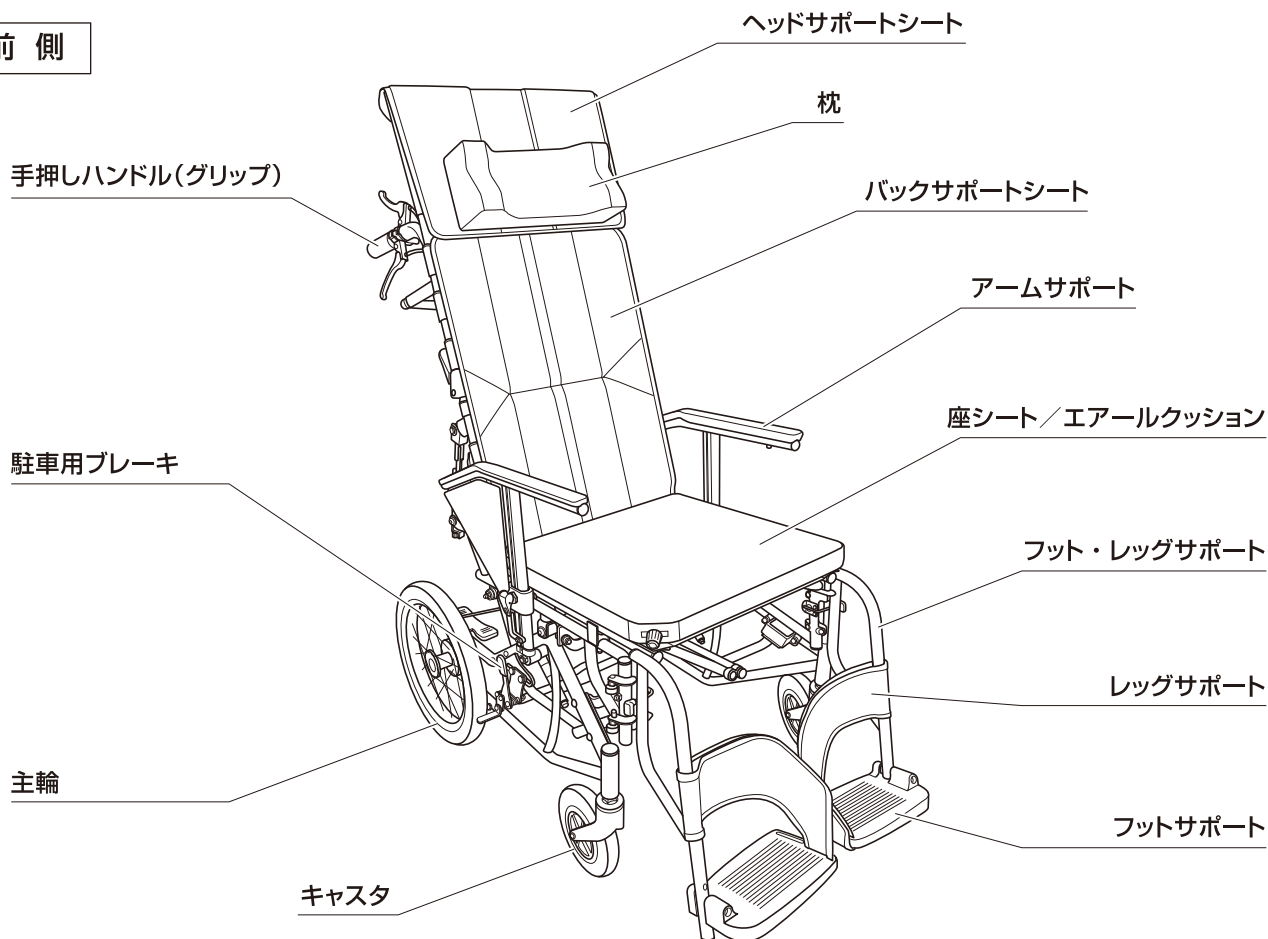


サイドガードをむやみに引っ張ったり、力を加えたりしないでください。

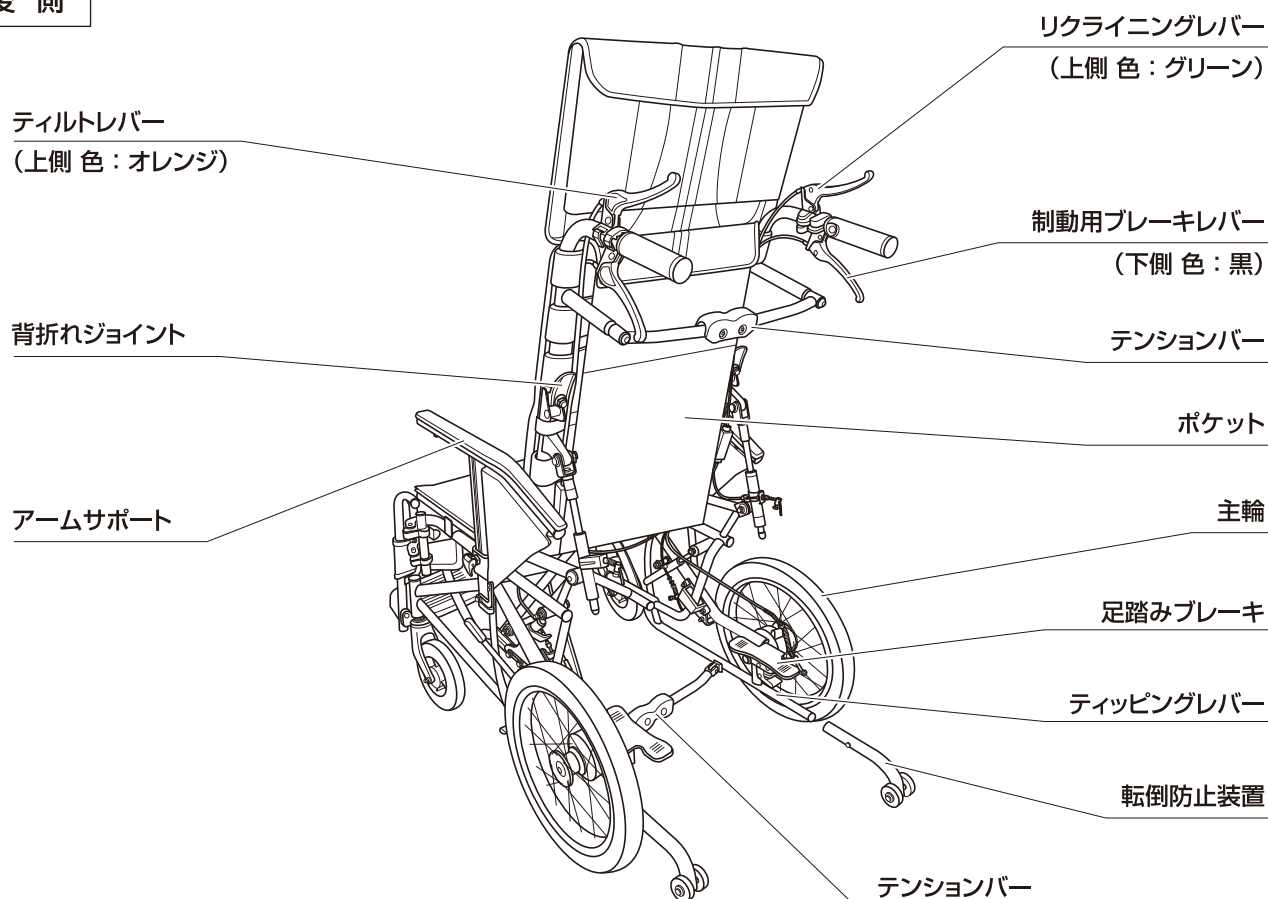
過度な力を加えると、サイドガードが破れたり車いすの破損や故障の原因となります。

各部のなまえ

前側



後側



使いかた

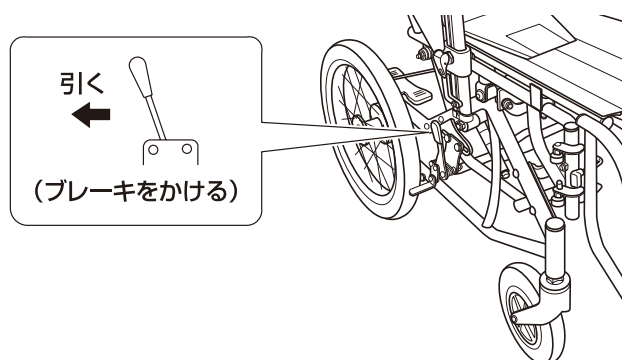
ブレーキのかけかた

⚠ 警告

- ・ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- ・ 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- ・ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があります、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・ タイヤの空気圧の低下、摩耗に注意してください。タイヤの空気圧が低下したり摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。空気の補充をしてもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

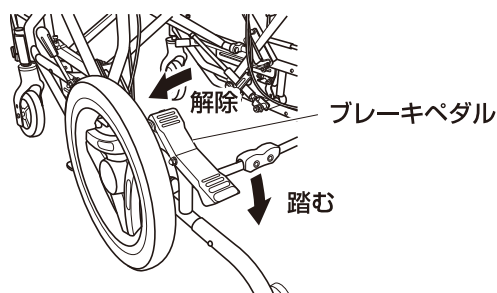
● 駐車用ブレーキのかけかた

介助者もしくは使用者が、左右の駐車用ブレーキレバーを後方に引いてかけます。
ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



● 足踏みブレーキの使いかた

介助者が、左右の足踏みブレーキを踏み込みます。
(駐車用ブレーキがかかります。)
ブレーキペダル前方で足を前に押し出すと、ブレーキペダルが元の位置にもどり、ブレーキが解除されます。



● 制動用ブレーキのかけかた

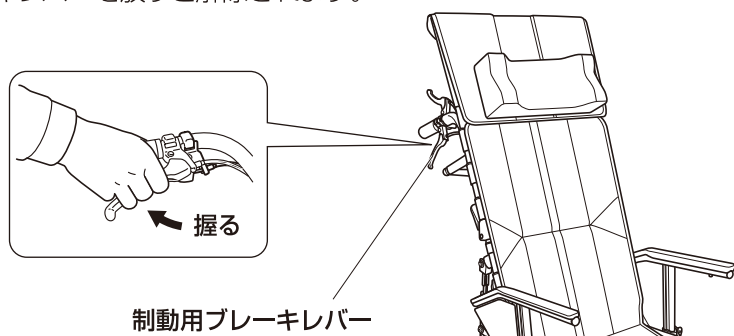
⚠ 危険

- ・ スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・ 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。

⚠ 警告

ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

介助者が、左右の手押しハンドル下にある黒色の制動用ブレーキレバーを左右同時に握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと解除されます。



⚠ 注意

ブレーキワイヤーは、安全のために定期的に点検してください。
(P.17「消耗品、交換部品の確認」参照)

車いすの開きかた

△注意

- ・シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。
- ・必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。
- ・車いすを開くときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。

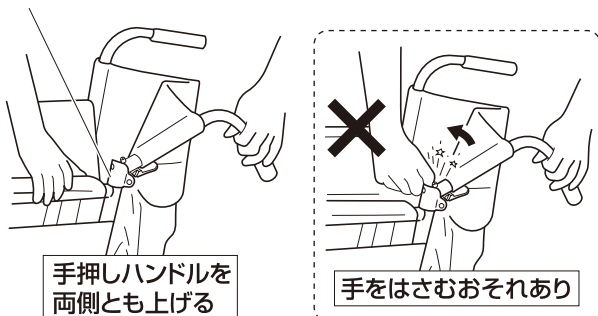
1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

2 手押しハンドルを両側とも上げます。

*背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。

*このとき、背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。

背折れジョイント

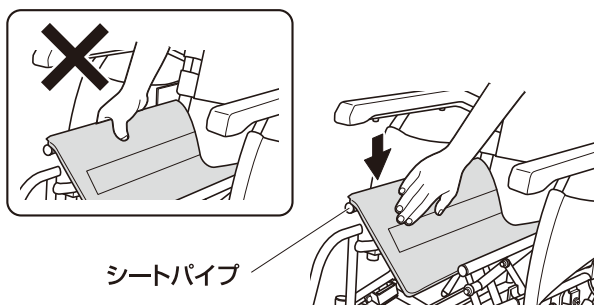


3 手押しハンドルを両側とも軽く持ち、車いす本体の後方部を浮かせながら左右に開きます。

4 シートパイプの両端を手の平で押し下げます。

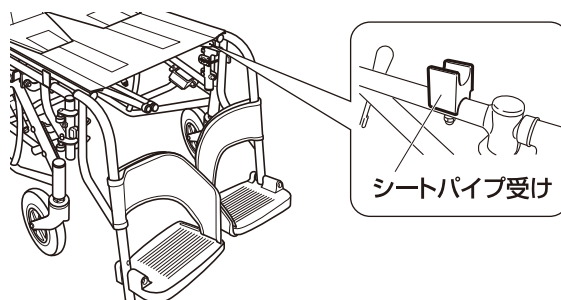
*シートパイプを握らないでください。

*シートパイプの中央付近を押し、先端は押さないでください。



5 シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりとハマっていることを確認します。

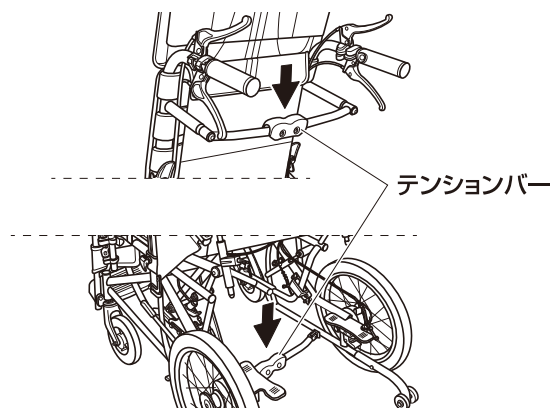
*しっかりとハマっていない場合は、シートパイプの中央付近を押してはめてください。押す時は、シートパイプの先端を押さないでください。フレームが変形する恐れがあります。



*シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。

*左右のフレームがねじれていると、シートパイプをはめにくい場合があります。そのときは、ティルトレバーを操作して左右のフレームのねじれを直してください。

6 手押しハンドルおよび駆動輪（主輪）内側のテンションバーの中央を持ち、ロックするまで押し下げます。



*テンションバーは足で踏まないでください。破損する恐れがあります。

7 バックサポートシートを取り付けます。
(P.10「シートの取り付け・取り外し」参照)

車いすのたたみかた

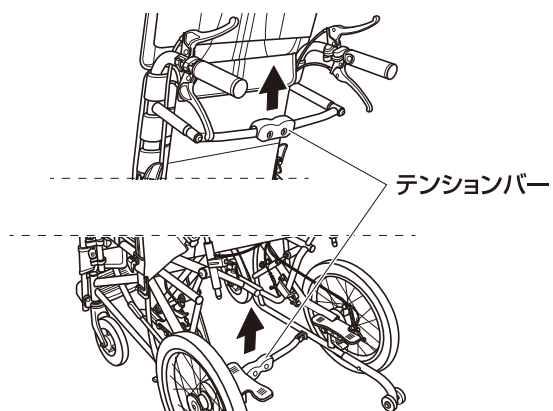
⚠ 警告

- ・アームサポートを持って車いすをたたまないでください。アームサポートが変形したり、手をはさんでけがをする恐れがあります。
- ・車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。

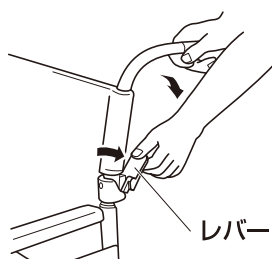
1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

2 ティルト、リクライニングを元の角度に戻します。

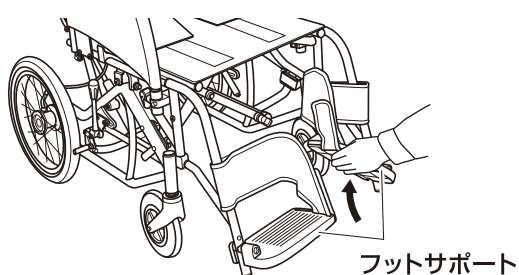
3 手押しハンドルおよび主輪内側のテンションバーを上を持ち上げ、少し折り曲げます。



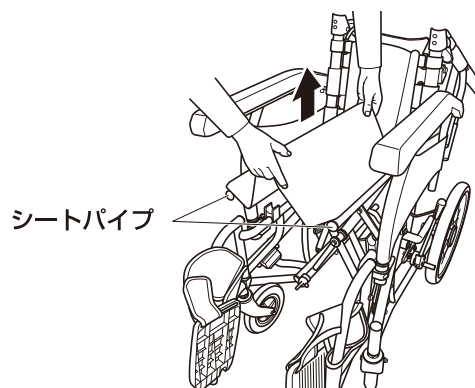
4 背折れジョイントのレバーを引いて、手押しハンドルを両側とも下げます。



5 フットサポートを両側とも上げます。

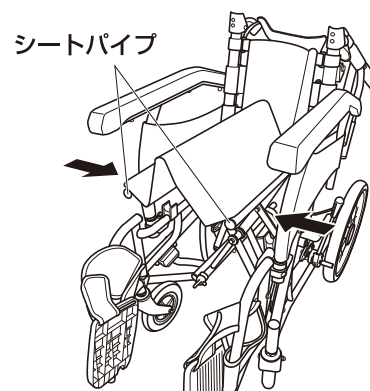


6 座シートを下図のように持ち上げ、シートパイプを引き寄せます。



7 シートパイプを両側から押し、座シートを折りたたみます。

*車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。



シートの取り付け・取り外し

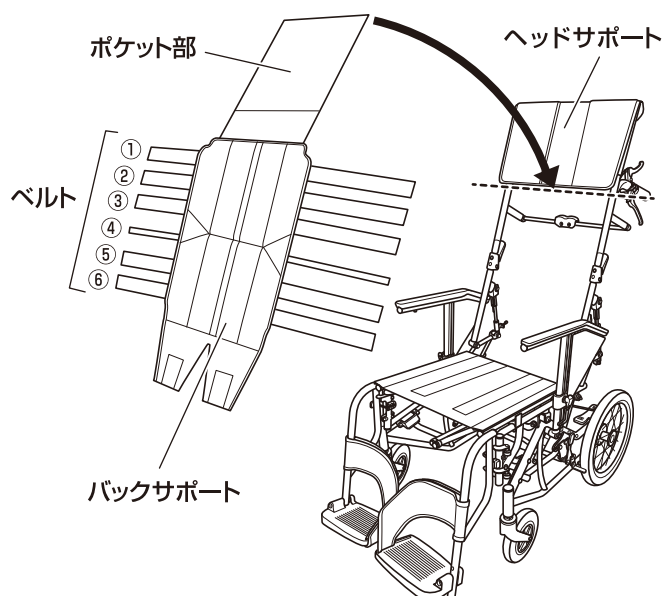
△注意

- ・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・使用者が乗車していない状態で作業してください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れがついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

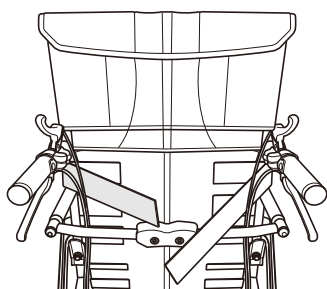
● バックサポートの取り付けかた

(出荷時は車いすとは別で梱包されています。必ず取り付けてご使用ください。)

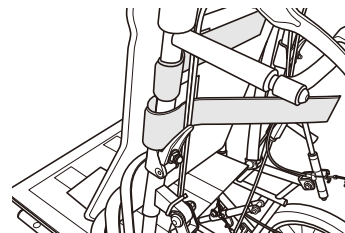
- 1** バックサポートのポケット部を後ろにし、ヘッドサポートの下から通します。
ポケット部は上にめくりあげておきます。



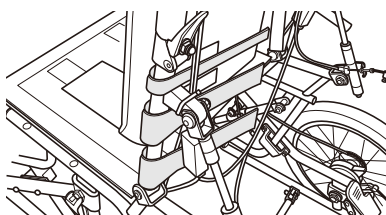
- 2** ベルト①をテンションバー上部の背パイプに巻きつけます。



- 3** ベルト②③を背折れジョイント上部の背パイプに巻きつけます。



- 4** ベルト④を背折れジョイント下部に、ベルト⑤⑥を背パイプ下部に巻きつけます。



- 5** 左右のベルト先端を引っ張って、張りを調節します。
(P.17「バックサポートの張り具合調節」参照)

- 6** ポケット部をバックサポートに貼り合わせます。

△注意

各ベルトを巻き付ける際、ブレーキ／ティルト／リクライニングの各ワイヤーと一緒に巻かないようにしてください。

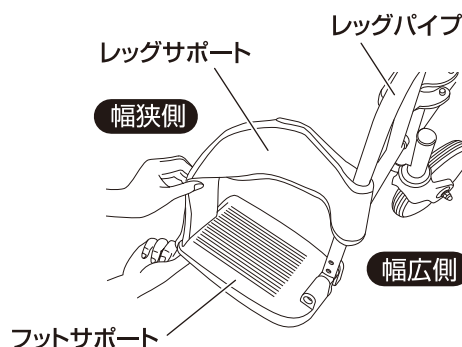


● エアークッションの取り付けかた／使いかた

別添「エアークッション取扱説明書」をご覧ください。

● レッグサポートの取り付けかた

- 1** レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレッグパイプに巻きつけ、面ファスナーを貼り合わせます。
- 2** レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後どちらかの穴に差し込みます。
- 3** 穴に通したレッグサポートの端を折り返して面ファスナーを貼り合わせます。
- 4** 反対側も同様の作業を行います。



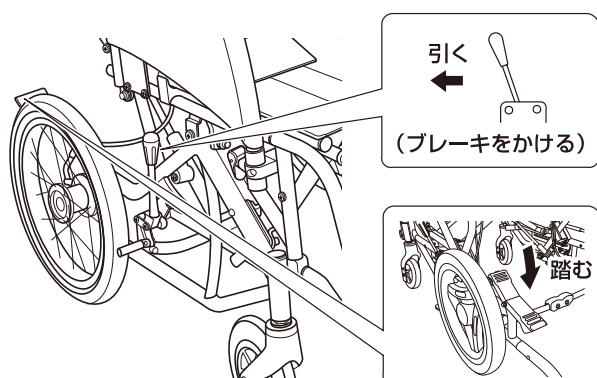
乗り降りのしかた

⚠ 警告

- ・ティルトさせた状態で乗り降りしないでください。転倒などの事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・乗り降り時は、シートを水平の位置にもどして、必ず両輪に駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。
- ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

● 乗りかた

- 1** 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

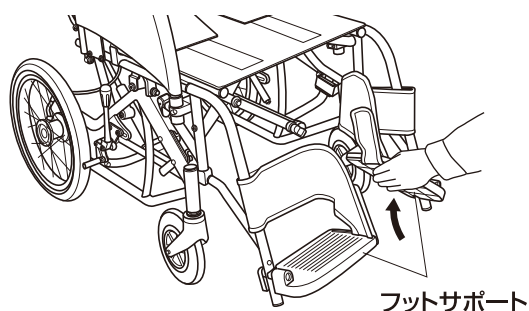


- 2** ティルトしている場合は、シート角度を水平にもどします。

- 3** フットサポートを両側とも上げます。

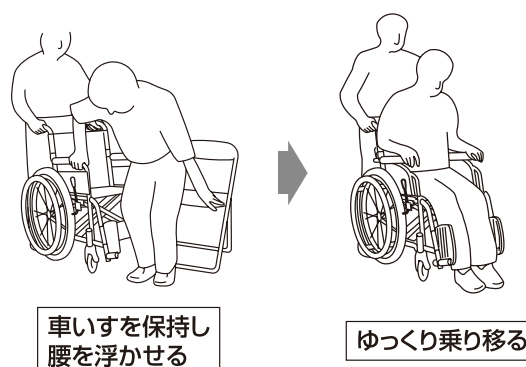
*フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。

*上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。



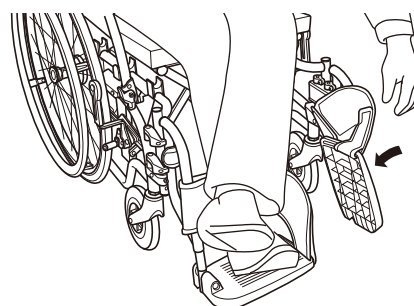
- 4** 必要に応じて、「フット・レッグサポートの開閉・取り外し(スイングアウト機能)」(P.13 参照)や、「アームサポートの高さ調節」(P.12 参照)を行います。

- 5** 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。



- 6** 「フット・レッグサポートの開閉・取り外し(スイングアウト機能)」や、アームサポートの高さ調節を行っていた場合は、元に戻します。

- 7** フットサポートを下げて両足を乗せます。



● 降りかた

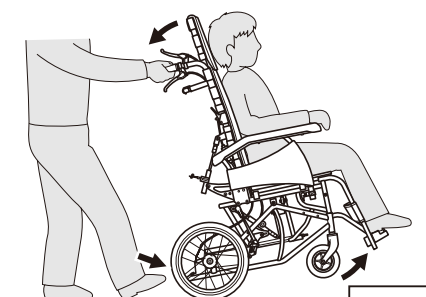
「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

段の上がりかた

⚠ 警告

- ・ティルト・リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。

- 1 ティルト・リクライニングしている場合は、シート角度を水平に戻します。
- 2 転倒防止装置を取り外します。(P.16「転倒防止装置の取り付け・取り外し」参照)
- 3 足元のティッピングレバーを前方に押し出すように踏み込みながら、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャストを段の上にあげます。



- 4 主輪を段に当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。

*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

- 5 上がり終えたら、転倒防止装置を取り付けます。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

車いすに乗ったまま持ち上げるときは二人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持ち上げるようにします。



アームサポートの高さ調節

乗り降りの妨げにならないように、アームサポートを下げることができます。

⚠ 注意

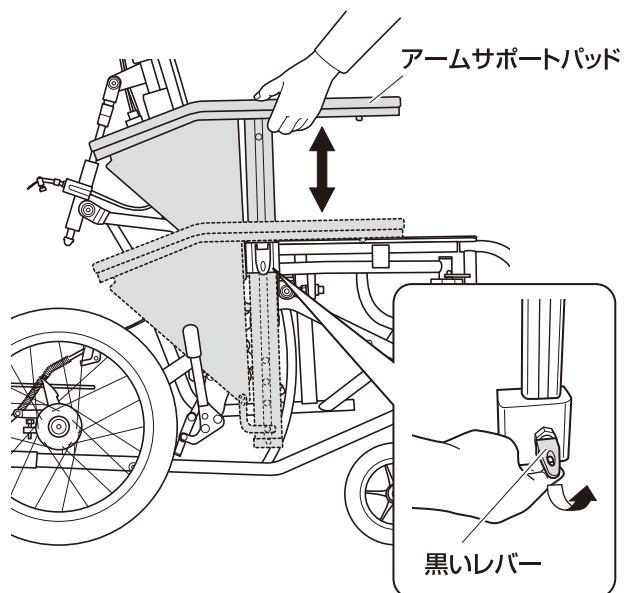
- ・高さ調節は、使用者の身体および衣服がアームサポートよりも内側にあることを確認してから行ってください。
- ・フレームの可動部には身体および衣服をはさまないように注意してください。
- ・高さ調節をした後は、必ずアームサポートがロックされていることを確認してください。
- ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで両輪に駐車用ブレーキをかけます。
- 2 アームサポートパッドを支えながら、アームサポート外側の黒いレバーを引き上げてロックを解除します。
- 3 アームサポートパッドを上下させて高さを調節します。(調整は4段階)
*調節はパッドの中心を持って行ってください。
- 4 調節を終えたら、レバーを下に倒してロックし、アームサポートパッドを固定します。

*調節後、アームサポートがしっかり固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

レバーを解除しているときは、アームサポートが下がる恐れがあります。その際、アームサポートと車いすのフレームの間に指をはさまないように注意してください。



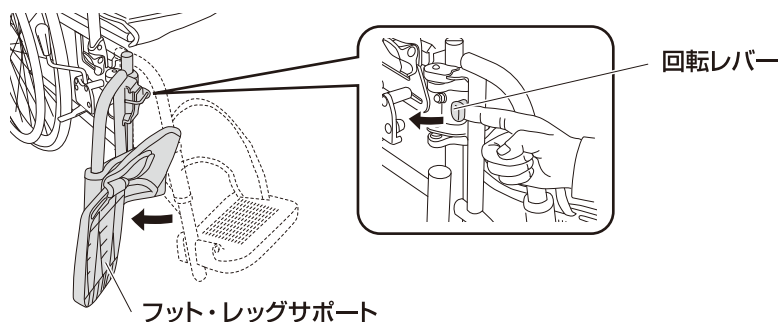
フット・レッグサポートの開閉・取り外し

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

<p>⚠ 警告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。 部品が外れて使用者が転倒、落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。 ・開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。 けがをする恐れがあります。 ・乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。 転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
-------------	--

● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。



● 閉じかた

⚠ 注意 フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

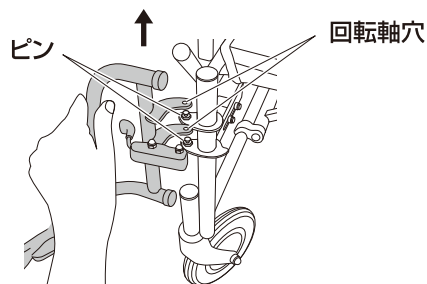
フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。
閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

1 車体フレーム側の回転軸穴にフット・レッグサポート側のピンを合わせて垂直に上からはめ込みます。



2 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

* フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

* フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。

各部の調節のしかた

⚠ 警告 各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。

フットサポートの高さ調節

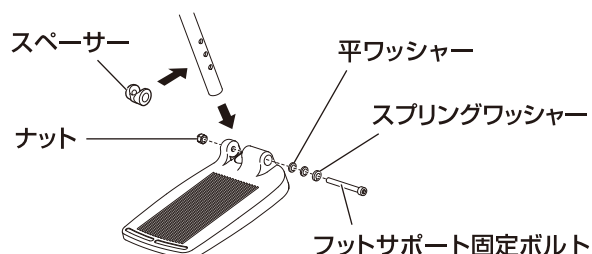
使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

フットサポートは20mm間隔で3段階の高さに調節することができます。

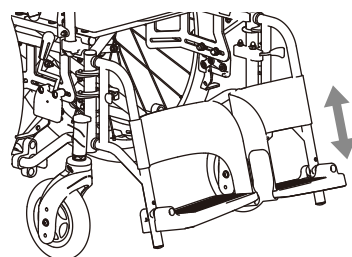
使用する工具：5mm六角レンチ(締め付けトルク：1.5～2.0N・m)

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

2 フットサポートを下ろした状態で、フットサポート固定ボルトを外します。



3 脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節します。



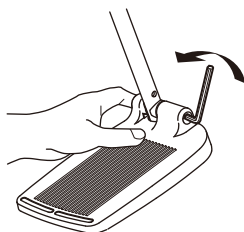
4 希望の高さの穴を決めたら、固定ボルトを差し込み、ナットと共に締め付けて固定します。

*反対側も同じ高さに調節してください。

フットサポート調節のコツ

取り外すとき

1 六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。反対側からナットが飛び出してきたら、ナットを指で押さえておきます。



⚠ 注意

ボルトがナット側に突き出ているときは、ナットを指で押さえているとけがをする恐れがありますのでご注意ください。

2 フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナットを取り外します。

取り付けるとき

- フットサポート固定ボルトの位置合わせをするときは、穴をのぞいてそこにボルトを挿入してください。
- フットサポートは、片手で回転できるくらいの固さを目安に取り付けてください。このとき、フットサポート固定ボルトを締めすぎないように注意してください。

シートの角度調節(ティルト機能)



△注意

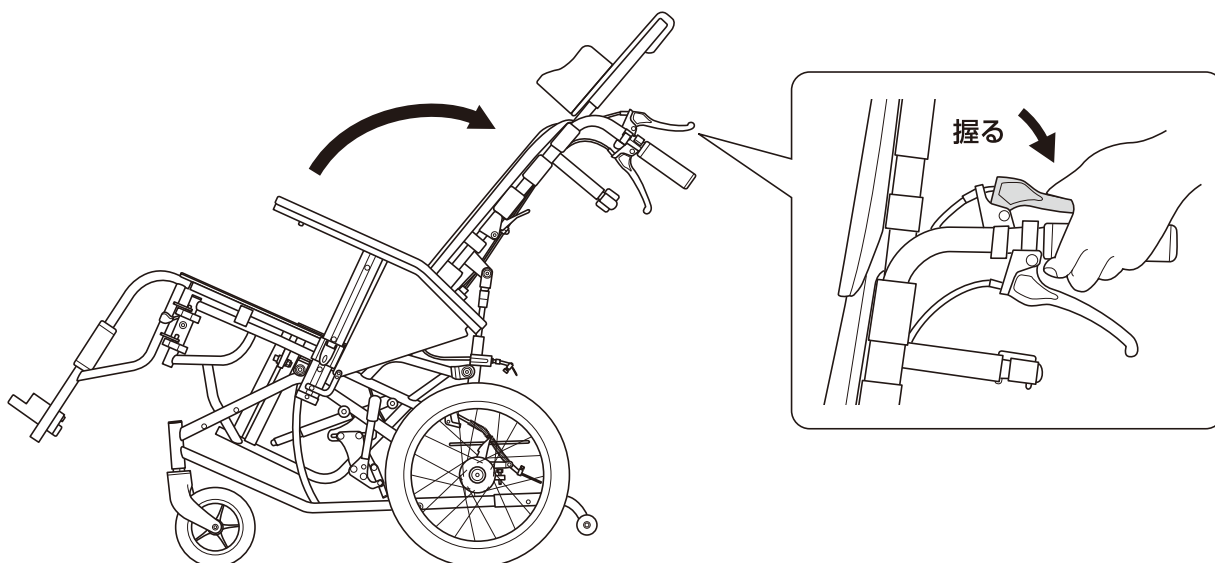
- ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかり支えてください。
- ・ティルト操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

2 手押しハンドルグリップ上側のレバーを握ります。

(マークが付いたオレンジ色のグリップです。)

シートの角度が2～30度の範囲で調節可能になります。



3 お好みの角度が決まったら、その位置でレバーを放します。

シート角度が固定されます。

4 シートとバックサポートにガタつきがないことを確認します。

* 操作はゆっくり行ってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。

* 使用者の体格や状態、シートおよびバックサポートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。その場合はシート、バックサポート角度を戻し、車いすを安定させた状態でご使用ください。

バックサポートの角度調節(リクライニング機能)




△注意

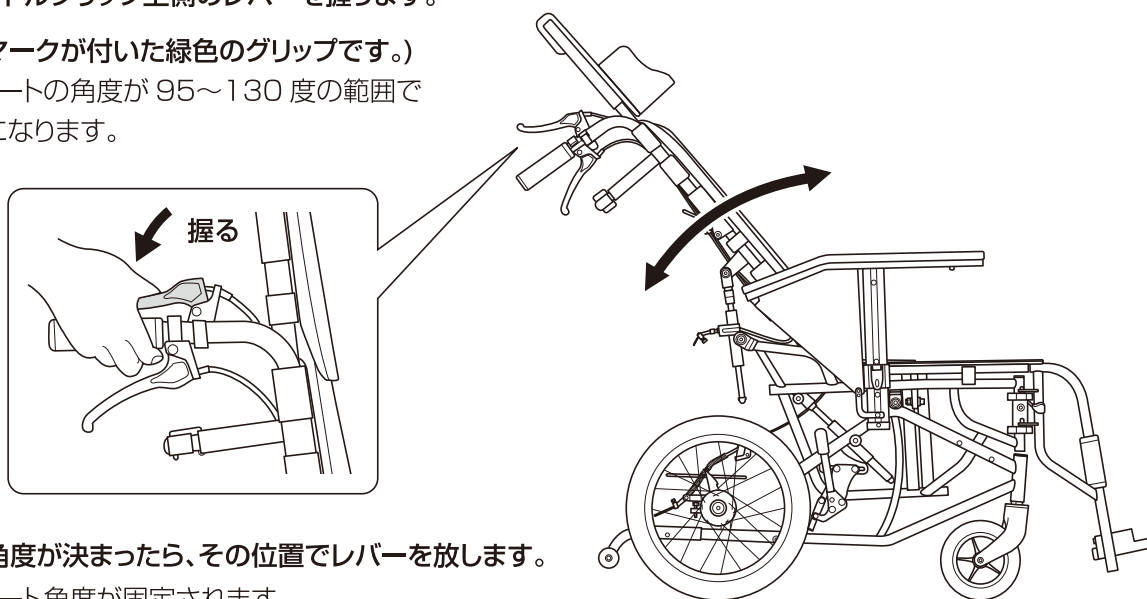
- ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかり支えてください。
- ・リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行なってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

2 手押しハンドルグリップ上側のレバーを握ります。

( マークが付いた緑色のグリップです。)

バックサポートの角度が 95～130 度の範囲で調節可能になります。



3 お好みの角度が決まったら、その位置でレバーを放します。

バックサポート角度が固定されます。

4 シートとバックサポートにガタつきがないことを確認します。

* 操作はゆっくり行ってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。

* 自走型の場合、ティルト・リクライニング角度によっては車輪がアームサポート上面より飛び出す場合があります。その場合は車輪が体に接触しないよう、アームサポートの高さを調節してください。(P.12「アームサポートの高さ調節」参照)

* 使用者の体格や状態、シートおよびバックサポートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。その場合はシート、バックサポート角度を戻し、車いすを安定させた状態でご使用ください。

転倒防止装置の取り付け・取り外し

△注意 操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。

●取り付けかた

転倒防止装置(2本)を、図の向きにしてティッピングレバーに差し込み、ロックボタンが穴から出ていることを確認してください。

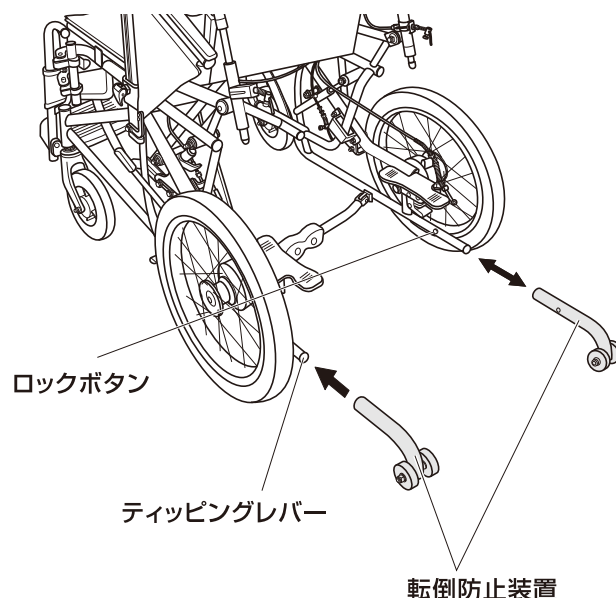
* 転倒防止装置が一時的にじゃまになるときは、取り外すことができます。通常は、転倒防止装置を図のようにセットした状態でご使用ください。

●取り外しかた

ロックボタンを押した状態で、転倒防止装置を引き抜いてください。

●転倒防止装置の向きの変更

ロックボタンを押した状態で、転倒防止装置を上を180°回転させてください。ロックボタンが穴から出ていることを確認してください。



バックサポートの張り具合調節

△注意 面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

バックサポートにはテンション式背シートを装備しております。テンション式背シートの張り具合を適切に調節することにより、バックサポートが使用者の体にフィットし、疲れにくく安定した姿勢を保つことができます。

* 調節は使用者を乗せた状態で行ってください。

* ヘッドサポートは固定式です。

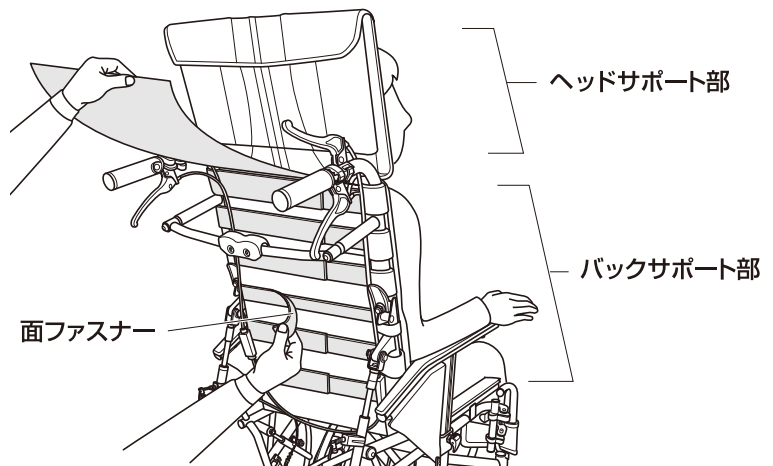
1 駐車用ブレーキのレバーを引くか、または足踏みブレーキを踏んで、両輪に駐車用ブレーキをかけます。

2 ポケット部をめくり上げます。

3 面ファスナーをはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。

* 手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。

4 ポケット部を元に戻します。



* アンカーサポート機能のついたクッションと合わせて使用すると、より姿勢保持の効果が得られやすくなります。

* 過度の調節（ゆるめすぎ、締めすぎ）はかえって姿勢を崩すこととなりますので、十分注意して行なってください。

* 面ファスナーの張り具合を過度に強くすると、車いすが十分に開かなくなり、フレームの変形の原因となります。

使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

<p>△警告</p>	<p>キャストの旋回軸やキャスト・駆動輪（主輪）・ブレーキ・各調節部等は定期的に点検してください。 ゆるんでいるときは増し締めをしてください。</p>	
-------------------	---	--

・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。

・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。
(地上より50mm 以上あげてください。)

● 消耗品、交換部品の確認

△注意 交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

・それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。

新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。

・ハイポリマータイヤは、表面に溝がない状態やひび割れがみられる状態で使用を続けると、タイヤ内部に水分が浸食して加水分解を起こし、タイヤの劣化が早まります。お早めに交換してください。

消耗品・交換部品

品 名	交 換 時 期
駆動輪（主輪）	タイヤの表面に溝がなくなったとき。タイヤにひび割れなどが見られる場合。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

⚠ 注意

- ・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。
- ・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。

● タイヤのお手入れ

- ・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● 保管・収納について

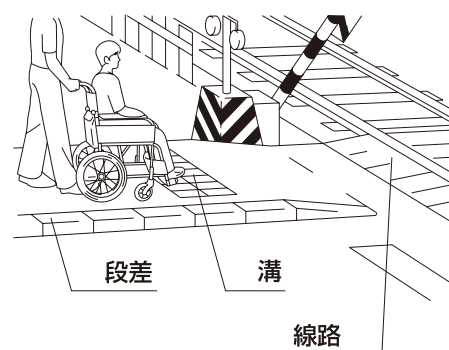
- ・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・錆やタイヤのパンク、劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所、直射日光のあたる場所には保管しないでください。

⚠ 注意

折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。
破損する恐れがあります。

走行上のご注意

- ・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャストのはさみ込みには充分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。
- ・エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）での使用は、絶対に行わないでください。
- ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。



困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症 状	確認点	対 処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	キャストの回転に左右差がありませんか。キャスト軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	キャスト、主輪の計4輪がきちんと接地していますか。	シートの角度調節を元の位置に戻すなど、左右にずれがないよう調節してください。改善が見られない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
駐車用ブレーキが効かない。	主輪のタイヤは磨耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押えが主輪にきちんと当たってますか。駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
制動用ブレーキレバーを放しても車いすが動かない。	本体や車輪とオプション品、アクセサリなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは主輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	駐車用ブレーキ、もしくは足踏みブレーキがかけられた（ロックされた）状態になっていませんか。 ※足踏みブレーキ装着車の場合	駐車用ブレーキと足踏みブレーキの両方をそれぞれ解除してください。本製品は駐車用ブレーキと足踏みブレーキが独立した（連動していない）構造になっています。
異音がする。	本体や車輪とオプション品、アクセサリなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは主輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・磨耗・汚れ・油汚れなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすを折りたたむことができない。	車いす後方の上下にあるテンションバーを折り曲げていますか。	テンションバーを折り曲げていない場合は折り曲げてください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
リクライニング(ティルト)の動きが悪い。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。

仕 様

単位mm

	機種名	測定項目	機種名
	CRT-WR		CRT-WR
フレーム材料	アルミ	駆動輪(主輪)径 (inch)	14PU (黒)
シート材料	ポリエステル ナイロン PVC	キャスト径 (inch)	6
アームサポートタイプ	上下式	前座高 (※1)	470 (435)
アームサポート	ウレタン	後座高 (※1)	455 (420)
サイドガード	ポリエステル	シート奥行	400
グリップ	PVC	シート幅	400
バックサポート	テンション調整	バックサポート高 (※1)	765 (800)
背折れ	あり レバー式	フットサポート・シート間距離 (※1)	370/390/410 (335/355/375)
フット・レッグサポートタイプ	開閉式(スイングアウト)	アームサポート高 (※1)	0/145/165/185/205 (35/180/200/220/240)
フットサポート	軽量	全高	1220
キャスト	6"ソフトフォーミング	全幅	550
タイヤ	ハイポリマータイヤ	全長	1045
制動用ブレーキ	あり サーボブレーキ	折りたたみ全高	780
ハンドリム	なし	折りたたみ全幅	310
駐車用ブレーキ	SKブレーキ 足踏みブレーキ	折りたたみ全長 (※2)	920 (1135)
		重量 (kg)	16.8

(※1)()内は座クッションを外した時のサイズです。(※2)()内はフット・レッグサポートを取り付けたままのサイズです。

アフターサービス

- ・ 万一故障の場合は、お買上の販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をご連絡ください。
- ・ 保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保 証

- ・ 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- ・ 保証期間終了後の修理については、お買上の販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元


株式会社 ミ キ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号